令和4年度　教育論文（研究同人論文）

研　究　主　題

自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育の充実

～主体的に考え、共に学び合う道徳科の授業づくりと、なりたい自分とつなぐ学校総体の取組の工夫～

主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫

授業改善に生かす振り返りと評価の工夫

なりたい自分とつなぐ道徳カリキュラム・マネジメントの充実

教科等	特別の教科　道徳
学校名	甲佐町立龍野小学校
氏名	龍野小学校研究同人

はじめに

本校は、令和３・４年度文部科学省より「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」及び熊本県教育委員会・甲佐町教育委員会より「道徳教育研究推進校事業」の研究指定をいただきました。

平成２７年に行われた学習指導要領の一部改訂により「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」として教科化されました。「考え、議論する道徳」への質的改善を求め、移行期間を経て小学校では平成３０年度から全面実施されています。

子供の心の成長に関わる現状を見たとき、家庭や地域社会の教育力の低下、体験活動の減少、自尊感情の低さ、規範意識の低下、他者意識の低さなど、子供の心の活力が弱っている傾向が指摘されています。このようなことについては、本校も同様で、特に規範意識の醸成や自己有用感の向上などを目指し、家庭や地域社会と連携した教育活動を推進していく必要性を痛切に感じています。

そこで、本年度も「なりたい自分」を目指し、自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育の充実に取り組んでまいりました。特に道徳科と体験活動及び各教科等をつなぐ「道徳カリキュラム・マネジメント」の改善を図るとともに、「自分事として考え共に学び合う道徳科の授業づくり」「授業改善に生かす振り返りと評価」を中心とした授業実践を積み重ねてきました。

本研究では、道徳科で授業をコーディネートする力を育成することで、他教科の授業改善にもつながることを目指して取り組んでまいりました。また、道徳教育を基盤とした学級経営を行うことで、確かな学力の育成にもつながると考えて取り組でんいます。子供の姿から少しずつ手応えを感じているところです。本年度は１１月にその研究の成果を発表する機会もいただきました。

ここに本校の全教職員で取り組んだ研究の一端を紹介し、様々な観点から御指導をいただき、さらに研究を深めていきたいと考え、教育論文としてまとめました。どうか忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

―目次―

はじめに
目次
Ⅰ　研究主題について
１　研究主題 1
２　主題設定の理由 1
（１）教育の今日的課題から
（２）本校の教育目標から
（３）児童の実態と昨年度の取組から
３　研究主題について 2
（１）「自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育」について
（２）「共に学び合う道徳科の授業づくり」について
４　研究の仮説及び仮説検証の手立て 2
５　研究の全体構想図 4
Ⅱ　研究の実際
１　【手立て１】なりたい自分とつなぐ道徳カリキュラム・マネジメントの充実 5
（１）「道徳カリキュラム・マネジメント表」の改善と取組の工夫
（２）「心のノート」の活用の工夫
（３）児童の生活につなぐ取組の工夫
２　【手立て２】児童が主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫 9
（１）授業展開における４つの工夫
実践例①　第１学年「そろっているけど」の授業実践から
実践例②　第４学年「ふるさとのたから」の授業実践から
実践例③　第６学年「25 人でつないだ金メダル」の授業実践から
（２）授業を支える共通実践事項
３　【手立て３】授業改善に生かす振り返りと評価の工夫 18
（１）授業改善に生かす評価項目の工夫
（２）授業改善に生かす教師の声掛けの工夫
４　研究発表会のまとめ 19
Ⅲ　研究の成果と課題
１　成果 19
２　今後の課題 20
引用文献及び参考文献
おわりに

Ⅰ　研究主題について

１　研究主題

自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育の充実
～主体的に考え、共に学び合う道徳科の授業づくりと、
なりたい自分とつなぐ学校総体の取組の工夫～

２　主題設定の理由

（１）教育の今日的課題から

「なりたい自分」を見つめること。それは、よりよい生き方を目指す上で欠かすことができないことではないだろうか。子供たちが生きる今は、多様な考え方、学び方、働き方、生き方があり、まさに変化の激しい予測困難な時代である。数え切れない選択肢の中から、自分で考え必要なものを選択、判断する力や、他者と協働して課題解決に臨むことができる力の育成が求められている中、その基盤となるのが、「どんな自分になりたいか」という生き方に対する主体性ではないかと考える。

ここで、社会的な問題であるいじめや情報モラル等の課題、環境問題や人権問題など、現代的な課題が山積する中で、学校教育における道徳教育の重要性はさらに高まっている。学習指導要領改訂の基本方針においても、「道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要と考えられる。」と述べられており、よりよい生き方を探究していくことと道徳教育は深く関わっている。

また、道徳科の授業では、「考え、議論する道徳」への質的転換が挙げられており、児童一人一人が自分事として考え、他者と共に学び合うような授業づくりが求められている。このような授業改善と、あらゆる教育活動において子供たちが自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育の充実に取り組むことは、今日の教育的課題と深く関連付けられるものである。

（２）本校の教育目標から

本校は、学校教育目標を「ふるさとに、笑顔広げる龍野っ子を育てる」とし、「元気にチャレンジする子」「まわりに感謝できる子」「話を聞き、笑顔で学習する子」を目指す児童像として掲げている。知・徳・体の視点から、児童一人一人が自分のよさや伸びを実感できる教育活動の推進を目指すものである。このような児童の姿は、将来を見据えて他者と

協力しながら自らの力を高めていく子供の姿であり、自分事として考え、他者と共に学び合うような授業改善によって育まれると考える。よって、目指す児童像の実現に向けて研究を進めることが、学校教育目標の具現化につながると考えた。

（３）児童の実態から

本校の児童は明るく朗らかで、休み時間になると多くの児童が外遊びを楽しんでいる。自分たちにできることを考え行動しようとする姿もある一方で、相手意識に欠ける面や自尊感情や規範意識の低さが目立つという課題が挙げられていた。児童アンケートにおいても、「自分の事が好きですか」という質問に「いいえ」を付ける児童も目立ち、自己肯定感の低さが課題となっていた。

以上の実態から、児童一人一人が自己を見つめよりよい生き方につなぐことができるような道徳教育の充実を図ることが、本校の課題改善につながると捉えた。

３　研究主題について

（１）「自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育」について

平成 25 年 12 月の「道徳教育の充実に関する懇談会」報告では、道徳教育について「自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することを目指すもの」と述べられた。さらに学習指導要領には、道徳科が目指すものは、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」であると示されている。

本校の課題として、自己肯定感や自尊感情を十分に抱けていない児童が少なくないという実態がある。そこで、将来を見据え、なりたい自分に近づくために、今できることや自分にとって大切なことを自分事として考えることができるような道徳教育を行うことが、一人一人にとっての「よりよい生き方」に通じると考えた。

（２）「共に学び合う道徳科の授業づくり」について

「特別の教科　道徳」となり、授業では、「考え、議論する道徳」への質的転換が求められている。そのためには、教材等の内容を児童が自分事として捉え、友だちなどの他者と考えを伝え合い「納得」や「発見」のある授業を展開させることが重要となる。このような授業改善を進めていくことが、児童一人一人のよりよい生き方につながっていくと考える。

よって、児童同士が考えをつなぎ、伝え合い、考えを再構築する中で、一人一人が自分の「納得解」を見つけると共に、実践意欲につないでいけるような道徳科の授業づくりを目指していく。

４　研究の仮説及び仮説検証の手立て

【研究の仮説】計画的・発展的な教育活動のもと、児童が主体的に考え、共に学び合うような道徳科の授業づくりやなりたい自分とつなぐ学校総体の取組の工夫を行えば、自己を見つめ、よりよい生き方を目指す児童の育成を図ることができるだろう。

仮説検証のために、以下に示す３つの手立てを設定した。

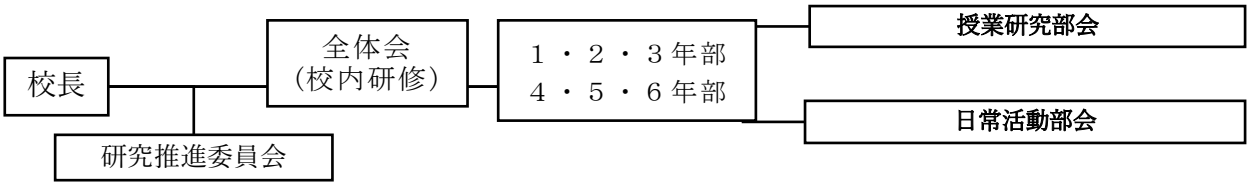
１．なりたい自分とつなぐ道徳カリキュラム・マネジメントの充実	２．児童が主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫	３．授業改善に生かす振り返りと評価の工夫
①「道徳カリキュラム・マネジメント表」の改善と取組の工夫 ②「心のノート」の活用の工夫 ③児童の生活につなぐ取組の工夫	①自分事として考える導入の工夫 ②問題意識をもつ教材提示、発問の工夫 ③主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫 ④自己をみつめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫	①授業改善に生かす評価項目の工夫 ②授業改善に生かす教師の声掛けの工夫

手立て１では、道徳教育を核としたカリキュラム・マネジメント、通称「道徳カリキュラム・マネジメント」を充実させるためになりたい自分とつなぐことに重点を置いた。道徳科の授業を軸とした教育活動を計画的・系統的に進めていくことで、普段の生活の中で児童がなりたい自分について捉えることをねらいとした。

手立て２では、児童が主体的に考えることができる学習活動の工夫に加え、他者の考えを認め合い、共に学び合うことのできる授業を目指した。各学年の実態に応じて、上記の４つの工夫を組み込みながら授業づくりに取り組んでいくこととした。

手立て３では、昨年度からの課題であった授業における振り返りと評価に重点を置き、更なる授業改善を目指すことにした。研究授業を軸として、授業における児童の姿から評価につなげていけるような取組の工夫を行うことにした。

児童の道徳性はあらゆる教育活動において育まれていく。よって、研究の組織を見直し、授業研究部会と日常活動部会での具体的内容を洗い出すことで、道徳教育の充実に向けた取組が計画的に行えるようにした。年度当初に計画した研究の組織は以下の通りである。



部会	メンバー	具体的内容
研究推進委員会	校長、教頭、教務主任、研究主任、各長(必要に応じて)	・研究の方向性や評価など、研究を行う上での課題解決を目的とし、必要に応じて研究主任が開催する。
授業研究部会 ○は各部の長	①低学年部 【○中村、鬼塚、塚本、宗】 ②中学年部 【○松岡、甲斐、澤村】 ③高学年部 【岩永、○藤田、山崎、木元】	・授業研究会の運営（付箋紙、授業メモ等の準備） ・必要に応じた事前研の実施、授業改善に向けて ・授業改善に向けた取組（展開の流れ等） ・考えをつなぐ発表の型の活用 ・学びの足跡を示す教室掲示の工夫
日常活動部会	① 体験活動で生き生きチーム 【○岩永、鬼塚、甲斐、澤村】	・運動会に向けて（事前オリエンテーション、全体練習） ・野外教室山編、川編 ・プール掃除 ・たてわり活動
	② 委員会レベルアップチーム 【○中村、藤田、宗】	・委員会の通常活動 ・たっぴー集会での委員会発表 ・児童会スローガンをもとにした委員会の取組
	③ 掲示でわくわくチーム 【○松岡、塚本、山崎、木元】	・道徳掲示板の活用 ・キャリア教育の取組（キャリアパスポートの活用） ・各行事等と関連した掲示 ・道徳の授業の振り返り掲示（地域、行事、授業など）

5　研究の全体構想図

学 校 教 育 目 標

ふるさとに、笑顔広げる　龍野っ子を育てる

本校の道徳教育の重点目標

○なりたい自分を目指して自律的に判断し、主体的に行動する児童の育成
【A-(1)善悪の判断，自律，自由と責任】

○集団の中で自分の役割を自覚し、友達と協力し合って楽しい学級や学校をつくろうとする児童の育成
【C-(14)(15)(16)よりよい学校生活，集団生活の充実】

研 究 主 題

自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育の充実
～主体的に考え、共に学び合う道徳科の授業づくりと、なりたい自分とつなぐ学校総体の取組の工夫～

【仮説】計画的・発展的な教育活動のもと、児童が主体的に考え、共に学び合うような道徳科の授業づくりやなりたい自分とつなぐ学校総体の取組の工夫を行えば、自己を見つめ、よりよい生き方を目指す児童の育成を図ることができるだろう

【手立て1】なりたい自分とつなぐ道徳カリキュラム・マネジメント(※)の充実

①「道徳カリキュラム・マネジメント表」の改善と取組の工夫
②「心のノート」の活用の工夫
③児童の生活につなぐ取組の工夫

【手立て2】児童が主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫

①自分事として考える導入の工夫
②問題意識をもつ教材提示、発問の工夫
③主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫
④自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

【手立て3】授業改善に生かす振り返りと評価の工夫

①授業改善に生かす評価項目の工夫

②授業改善に生かす教師の声掛けの工夫

学校総体でつなぐ道徳教育

家庭・地域とつなぐ　GT の活用　学び合う教師集団　幼・保、小、中連携

※ここで示す「道徳カリキュラム・マネジメント」とは、道徳教育を核とするカリキュラム・マネジメントのことを意味する。

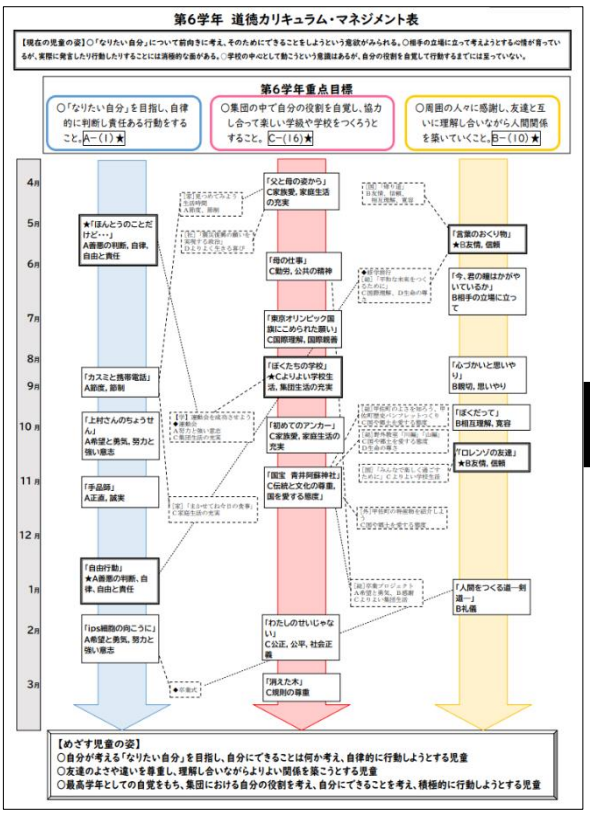
Ⅱ　研究の実際

１　【手立て１】なりたい自分とつなぐ道徳カリキュラム・マネジメントの充実

（１）「道徳カリキュラム・マネジメント表」の改善と取組の工夫

道徳教育における年間の見通しをもち、他教科等との学びのつながりがある授業づくりを目指し、本校では昨年度から「道徳カリキュラム・マネジメント表」を作成している。この表は、児童の実態を基に設定した重点目標を軸に道徳科の教材を整理し、それに関連する他教科・行事等とのつながりを図化したものである。

昨年度は、図１に示したように、３つの重点目標を設定し、それらを軸にして表を作成していた。しかし、軸が３つあることで道徳科の授業に関わる他教科等とのつながりも増え、活動内容が広がり過ぎてしまうという課題が残った。そこで今年度は、重点目標を２つに絞り、児童の実態に合わせて活動内容をより精選していった。さらに、児童が考える「なりたい自分」に関わる取組と道徳科との関連も明記し、教師自身も児童が考える「なりたい自分」と道徳教育とのつながりを意識できるようにし、学校総体としての教育活動の充実を図った。



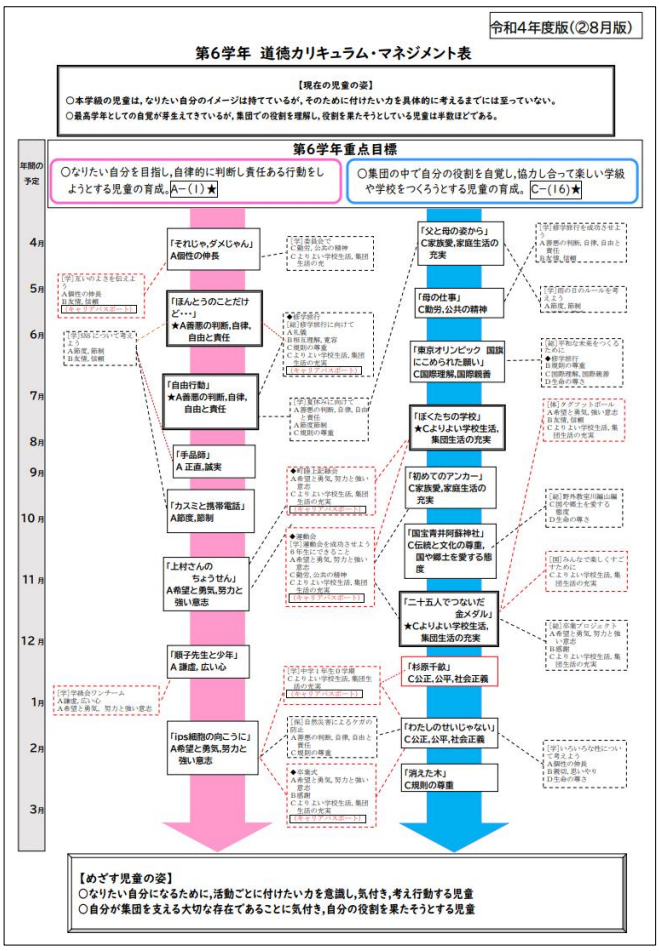


図１：昨年度の道徳カリキュラム・マネジメント表（左）と改訂した今年度の表（右）

ここで、道徳カリキュラム・マネジメントを充実させるために意識したのがＰＤＣＡサイクルである。まず初年度にプランを立て【Ｐ】、１学期に実践、チェック【ＤＣ】、夏休み

に児童アンケート等を踏まえ、見直し・修正を行い、その後のプランを立てる【ＣＡＰ】という流れになっている。夏休みに修正した箇所については朱書きをし、変更点を意識しながらその後の計画を立てていくようにした（図２参照）。道徳授業と他教科とのつながりに４月当初は気付いていなくても、実践し、振り返ることで表の見直しに生かすことができた。このように修正・改善を繰り返しながら、道徳科の授業を核とした教科横断的な教育活動に取り組んでいった。

ここで、３年生の実践を取り上げる。図２より、総合的な学習や音楽の授業で、ふるさとの伝統や文化について取り扱った後に、道徳科で内容項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に関する教材を学習している。道徳の授業以外でもふるさとの文化について考える機会を持っていたことで、道徳の授業の終末で児童は「龍野でも、みんなのためにがんばっている人はいないかな？」と自分事として振り返ることができていた。このような学習を重ね、「龍野のたからをさがそう」という総合的な学習に取り組んでいくこと

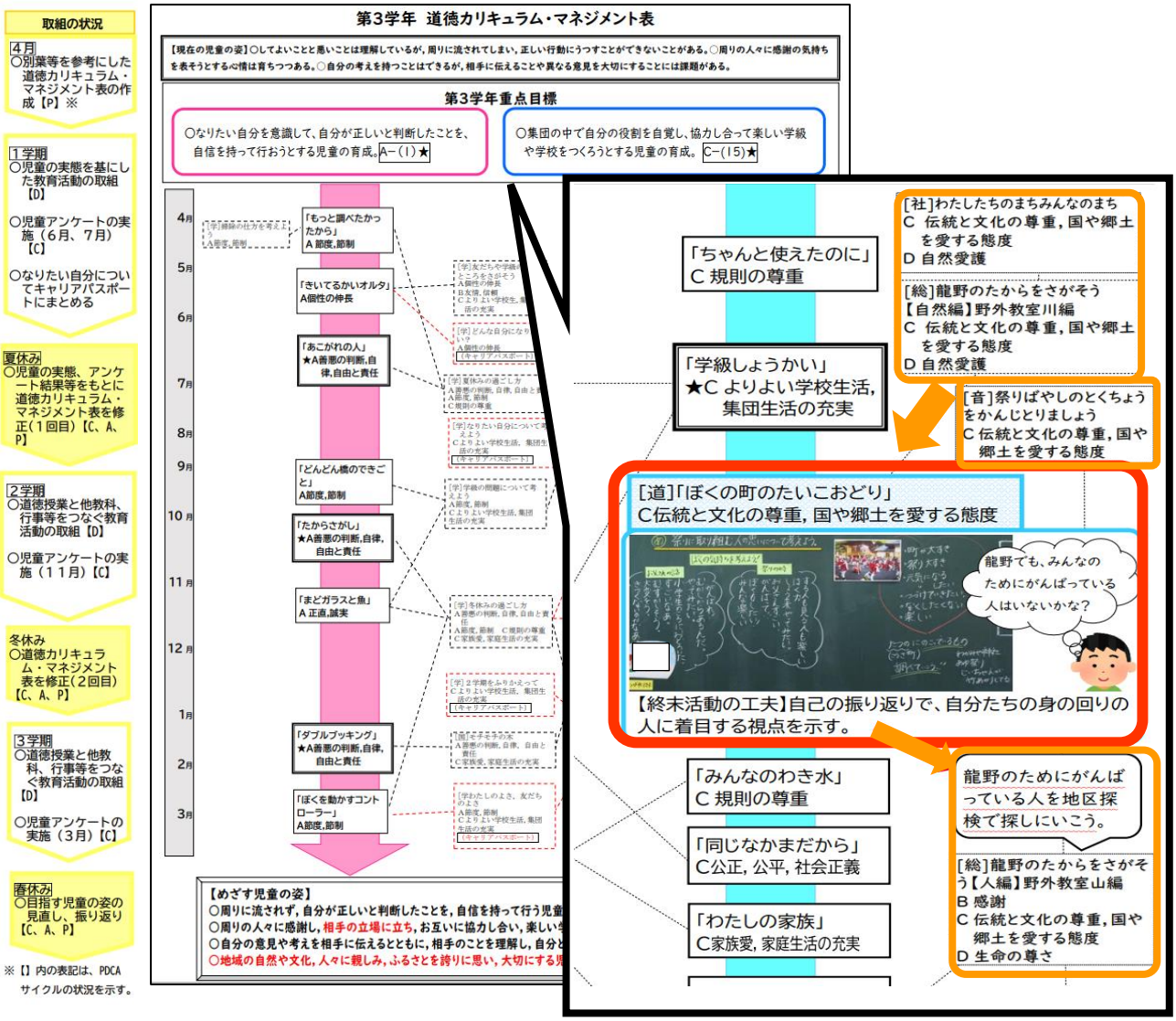


図２：道徳カリキュラム・マネジメント表（中央）と取組の実際（３年生の例）

で、児童はより意欲的に活動に臨むことができ、興味・関心をもって龍野のたからさがしに取り組んでいた。

（２）「心のノート」の活用の工夫

児童が、道徳科の授業と日常生活とのつながりを意識できることをねらい活用したのが「心のノート」である。各学年の発達段階に応じたノートを準備し、様々な行事や体験活動等の前後に用いるようにした。５年生の実践では、集団宿泊教室の事前オリエンテーションで心のノートに成長させたい力を書き、参加した後の振り返りでも心のノートを活用した。ノートに考えを書くことで、自分の考えを一人一人が明確に意識することができ、その後に実施した道徳科の授業においても、自身の体験と重ねて考える発言が多く出された（図３参照）。振り返りの場面でも、児童は自分事として考え、これからの生活に生かしていきたいとする姿が見られた。

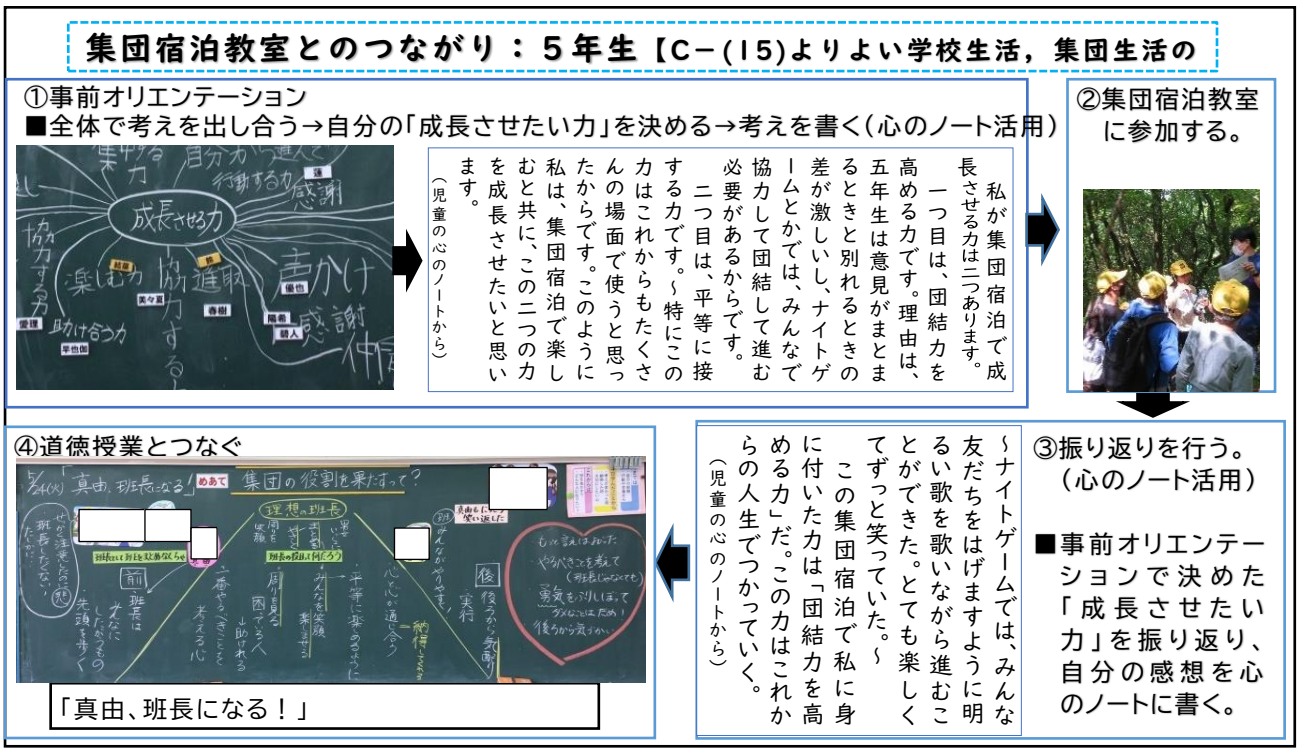


図３：集団宿泊教室において心のノートを活用した実践例（第５学年）

（３）児童の生活につなぐ取組の工夫

児童一人一人がなりたい自分への意識を明確にもち、自身の学校生活とつなげて捉える意識を高めるために活用したのがキャリアパスポートである。各学年の実態に応じたシートを作成し、なりたい自分とそのために「成長させたい力」を記入し、見通しと意欲をもって過ごせるようにした。

１～３年生は「こんな自分になりたいな」というめあてを立て、学期ごとに振り返りができるシートを用いた（図４左）。一方４～６年生は、将来の自分や１年間というより長い

スパンで見通すことができるシートを使い、年度当初に立てた自分が成長させたい力と関連させながら自分自身を振り返ることができるようなシートを活用した。また、シートは定期的に振り返り、今の自分を見つめ直し、授業だけでなく、日常生活での道徳的価値の高まりにつないでいった。さらに、児童自身が将来への前向きな展望をもてるよう、教師は励ましの声掛けやコメントを書くよう心掛け、学級全体でなりたい自分への意識を高めていった。

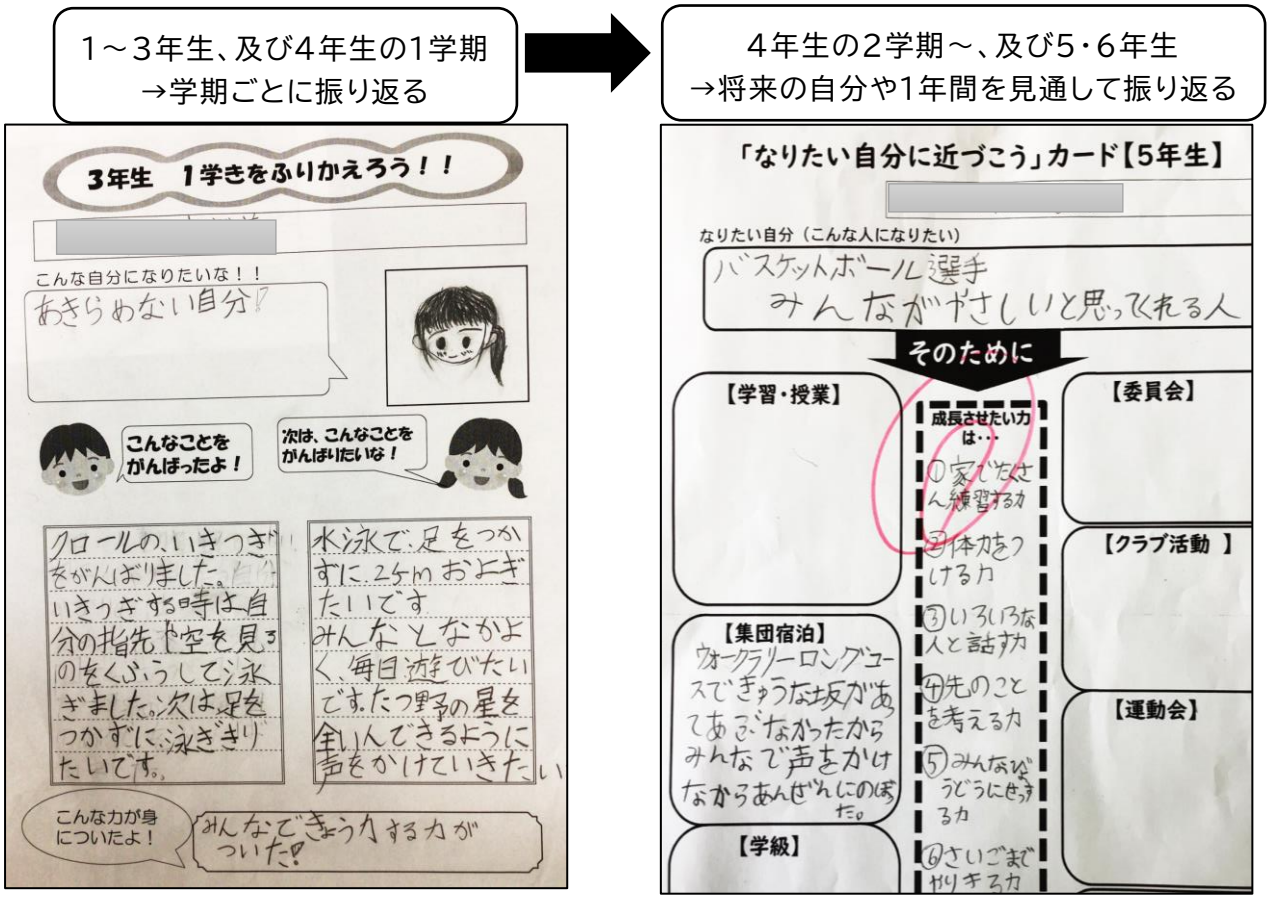


図４：今年度作成したキャリアパスポート（左：３年生、右：５年生）

また、本校独自の取組である「野外教室　川編」では、内容項目の「よりよい学校生活」や「自然愛護」等と関連付け、取組の前後に道徳の授業につなげるようにした。図５より、高学年の活動では事前オリエンテーションを行い、活動のめあてを全体で共通理解してから「野外教室　川編」に取り組んだ。児童一人一人が目的意識をもち活動に臨むことで、まとめの活動においても、竜野川の水質や環境を守ることについて自分にできることはないか考え、振り返っていた。このような取組を通して、集団生活の充実や自然愛護の心の育成につなげていった。

図５：「野外教室　川編」の取組（高学年）

２　【手立て２】児童が主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫

本校では、授業の基本の型として、以下のような学習過程の図を作成した（図６）。この展開例を基本とし、児童の実態、内容項目、教材に応じて柔軟な授業構成につないでいった。

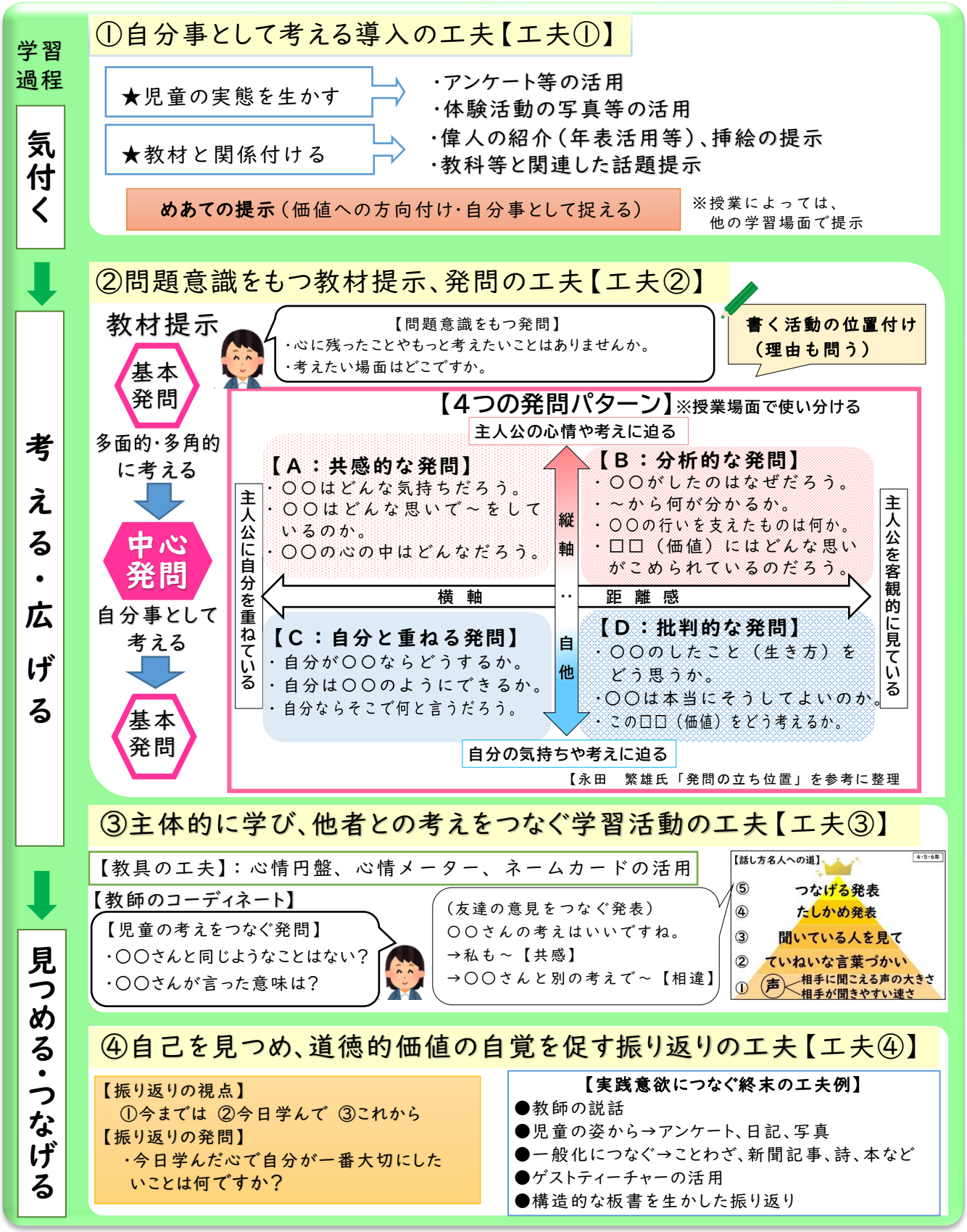


図６：授業の学習過程の図（基本の型）

（１）授業展開における４つの工夫

まず、道徳科の授業づくりにおいて基盤となるのが本時のねらいである。そこで本校では、「内容項目」「教材」「児童の実態」という３つの視点を基にして本時のねらいを設定し、教師が、目指す児童の姿を明確にもって授業づくりを進めるようにした。

ア　自分事として考える導入の工夫

導入場面において児童の興味・関心を引き付けることは、学びへの主体的な態度を育む上で欠かすことができない。特に道徳科では、自分事として考え実践意欲につないでいくために、児童の実態を生かした導入や教材提示の工夫を行った。

イ　問題意識をもつ教材提示、発問の工夫

教材を読む場面では、学年の発達段階によって教材提示の仕方を工夫し、児童一人一人が問題意識をもって考えることができるようにした。また、発問を考える際に参考にしたのが、図６に示した「４つの発問パターン」の型である（永田繁雄氏の著書を参考）。授業で扱う発問を分類することで、「この発問をするねらいは何か」「どの発問だったらねらいに迫ることができるか」など、教師自身が発問の意図を客観的に検討することにつながった。また、４つの発問パターンを縦軸と横軸で整理し直し、主人公との距離感と自他との距離感で捉え直すようにした。軸を設定したことで、発問を分類する際の比較がしやすくなり、多様な発問を取り入れていくことにつながった。

ウ　主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫

児童が考えを伝えたいと思うような場の設定を工夫したり、心情円盤やネームカード等など教具を取り入れたりすることで、一人一人の考えを明確にして互いに考えを伝え合うことができる学習活動の工夫を行った。児童が考えたくなる、発言したくなるような教材・教具の工夫を行い、主体的な学びが生まれる学習活動の工夫を行った。

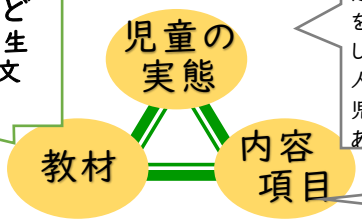
エ　自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

本時の学びが児童の実践意欲に結びつくことを目指し、振り返り場面では自己を見つめることができる多様な活動を取り入れた。教師の説話の他に、学校生活の様子を写真で着目したり、道徳的価値の一般化につなぐ諺や詩の紹介、ＧＴとして地域の方々や保護者の話を聞いたりした。また、構造的な板書の工夫を行い、教材から学んだ道徳的価値を子どもたちの言葉で示すことで、振り返りで自分事として考えることができるようにした。

そこで、３本の授業実践で検証をしていく。

【実践例①】第１学年　「そろっているけど」の授業実践から

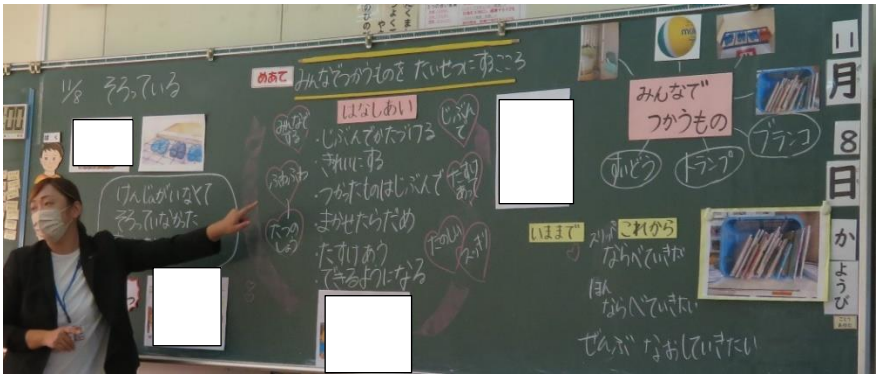
そろっているけど
出典「小学道徳　生きる力１年（日本文教出版）



意識アンケートの結果からものを大切に使う児童が多かった。しかし、みんなで使う物を次の人のことまで考えて使おうとする児童はあまり見られない状況である。

【規規則の尊重】

【ねらい】けんじくんのクラスの一員となり、役割演技をすることを通して、みんなで使う場所や物を大切にしようとする心情を育てる。

学習活動（・児童の反応）　教師の発問	授業改善の観点
１　公共物を出し合い、学習問題について知る。 この写真の中でみんなで使うものはどれですか。 ◆ほうき、スリッパ、ボール、筆箱 他にみんなで使うものはどんなものがあるかな。 みんなで使うものを大切にしていますか。 **【めあて】みんなでつかうものをたいせつにする心**	【工夫①】 クイズ形式で考え、みんなで使う物に目を向けさせた。
２　教材を読み、ぼくの気持ちを軸に考える。 主人公「ぼく」の気持ちを考えながら聞きましょう。 話を聞いて、どんなところが心に残りましたか。 ・けんじくんがいつもスリッパをならべていたこと。 ・最初はできなかったけど、できるようになったこと。 ・６年生がボールを持ってきてくれて１年生の心がふわふわになった 基本発問 「はっ」としたぼくはどんなことに気付きましたか。 【B:分析的な発問】 ・けんじくんがお休みだからそろっていなかった。 ・けんじくんが毎日してくれていたことに気付いた。 ○このままけんじくんに任せたままではいけないことを全体で確認。 中心発問 けんじ君のクラスの一人だとして、話し合いの時、何と発表しますか。 【C：自分と重ねる発問】 （書く活動→ペア交流→全体交流） ・自分で使った物を片付ける、みんなの物だから ・自分で並べる、けんじ君がいなくても自分たちでしたらきれいになる ・けんじくん一人にまかせてはいけない。 ・みんなでたすけあう、みんなで使う物だから ・けんじくんがいなくて困っていたけど、自分たちでできるようにしたい、そんなクラスにしたい。 そんな学校になったらどうだろう。 ＊考えを深める発問 ・楽しい気持ち、スッキリする  	【工夫②　】 紙芝居で教材文を提示した。挿絵や短冊等で板書を構成し、内容把握ができるようにした。 【工夫③】 主人公のクラスの一員になるということで、全体での役割演技を行い、自分事として考えられるようにした。 【工夫①④】 板書で自分の生活を振り返ることができるように導入で、「みんなで使う物」を発表させ、ウェビングで示した。
３　自分自身を振り返る。 ○みんなのために行動している児童の写真を提示し、自分の生活を振り返る 今までの自分はどうでしたか、これからどんな心を大切にしたいですか ・これからトイレのスリッパを並べたい。みんなで使う物だから ・本を並べたい。龍野小みんなのものを大切にする心 ・これからなんでもちゃんと直したい。助け合う心	【工夫④】 導入の板書やみんなのために取り組む児童の写真を提示し、中心発問で考えた意見を確認し、振り返りにつないだ。

ア　自分事として捉える導入の工夫

クイズ形式の導入

１年生は、「自分で使うもの」と「みんなで使うもの」の区別もつかない児童もいる。そこで、クイズ形式で写真を提示し、「みんなで使うもの」を確認した。他にみんなで使うものとして、ブランコや水道、図書の本などを発表し、黒板に記入した。

イ　問題意識をもつ教材の提示、発問の工夫

紙芝居での教材提示

児童が問題意識をもつように、題名「そろっているけど」に着目させ、紙芝居による教材提示を行った。提示後、「そろっているけど」とは、どんなことか尋ねると教材内容を理解し、心に残った場面を発表していた。

発問では、B：分析的な発問→C：自分と重ねる発問で授業を展開した。

1年生の発問例《教材名「そろっているけど」、内容項目：規則の尊重》
○はっとしたぼくはどんなことに気付きましたか。【B:分析的な発問】
○けんじくんのクラスの一人だとして、話し合いの時何と発表しますか。【C：自分と重ねる発問】

ウ　主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫

本時では、全員がけんじくんのクラスの一員になるという役割演技を行った。けんじくんの席も用意し、「けんじくんのクラスの一員にへんしん！」という合い言葉で、全員がけんじくんのクラスの一員になり自分事して考えるようにした。まず、自分の考えを書き（図７）、全体交流につないだ。指導者は、発表した児童の考えを周りの児童へ問い返すことを心がけた。

○ぼくたちでつかったものはじぶんでかたづける。わけは、けんじくんがつかれるからです。けんじくんがきたら、いつもかたづけてくれてありがとうと言おう。

○じぶんでならべよう。わけは、けんじくんがいないときも、じぶんたちでできるときれいになるからです。

図７：児童のシート

けんじくんのクラスの一員として役割演技をして考えることは児童にとって分かりやすい活動であった。また、「けんじくんだけではなく自分でもできるようになりたい。そんなクラスにしたい。」など価値の高まりも見られた。

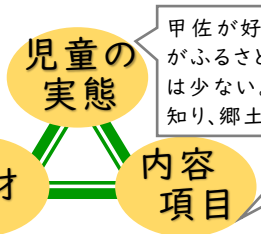
エ　自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

本を並べる児童の紹介

振り返りでは、みんなのためにがんばっている児童の姿を紹介した。その後、中心発問ででた「どの心を大切にしたい？」ということで自分の振り返りを行った。児童は、今までできなかった自分のことを振り返り、今日考えたことから、「スリッパを並べたい」など、これからどうしたいかなど発表していた。

【実践例②】　第４学年「ふるさとのたから」の授業実践から

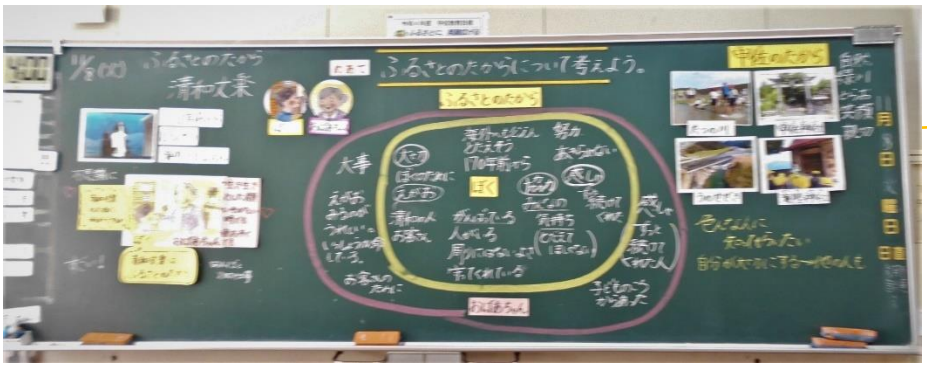
「ふるさとのたから」
清和文楽
出典「くまもとの心　中学年」（熊本県教育委員会）」



甲佐が好きだと答えた児童が多いがふるさとのよさを知っている児童は少ない。校区や甲佐町の伝統を知り、郷土を愛する心を育てていく。

【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

【ねらい】ふるさとの宝にこめられた、ぼくやおばあちゃんの思いを考えることを通して、郷土に親しみをもち、伝統と文化を大切にしようとする心情を育てる。

学習活動（・児童の反応）　教師の発問	授業改善の観点
1　甲佐町や清和文楽の写真を見て、考える。 みんなのふるさとは。　・甲佐町 みんなのふるさと、甲佐町の宝はなんだろう。 ・甲佐も自然　・緑川　・竜野川　・甲佐神社　・鵜ノ瀬ぜき　・海陸神社 〇見学旅行で行った清和文楽の写真を提示し、題名を提示する。 **【めあて】ふるさとのたからについて考えよう**	【工夫①】 甲佐町や清和文楽の写真を提示することで、内容への興味や疑問を引き出すようにした。また、題名から学習のめあてにつないだ。
2　教材を聞き、ぼくの気持ちを中心に考える 「ぼく」の気持ちを考えながら聞きましょう。 話を聞いて、「①心に残ったこと②みんなと考えたいこと③疑問」を発表しましょう。 ・ぼくが清和文楽に何ができるかを考えたところが良いと思った。 ・ぼくは、おばあちゃんが忙しい中、清和文楽に取り組んでいるのか不思議に思ったけど、〇〇さんの発表を聞いて最後に何かできないか考えたところがいいと思った。 ・とだえそうになるってどんなことかと思いました。 中心発問　途絶えそうになるとはどんなことだろう。 ・なくなりそうになる。 なぜ、ぼくは「ふるさとのたから」だと思ったのだろうか。【B:分析的な発問】 （書く活動→伝え合い→全体交流） ・170 年間も途絶えそうになっても続いているから。 ・多くの人があきらめずに続いている。 ・清和の人もお客さんもみんな笑顔でいるから。 ・みんなで守っていこうと大事にしているから。 基本発問　おばあちゃんにとってどんな思いがあるかな 【D:共感的な発問】 ・感謝の場所。 ・〇〇さんに付け足して、170 年間続けてきた人に感謝したい。 ・子供の時からあったし、ふるさとの宝だと思っている。 ・とても大事・みんなの笑顔を見るのがうれしい。 	【工夫②】 教材についての感想や疑問点を交流することで、児童が主体的に考えることを促し、全体での内容理解を図った。 【工夫③】 ぼくの心情の変化に着目し、その心の内容を班で検討させることで、本時での学びを生かしながら大切にしたい心について考えることができた。 【工夫③】 登場人物の心情の変化を構造的な板書で整理した。 「ぼく」（黄色）「おばあちゃん」（ピンク）の思いを対象として大切にしたい心を色で囲んだことで、たからへの思いを視覚的にも意識化させることができた。
3　自分たちのふるさとの宝について考える。 基本発問　みんなにとってのふるさとの宝は何ですか。自分たちのふるさとについて考えてみてね。振り返りで書いてもいいですよ。 ・今まで甲佐の宝を知らなかったけど、これから見つけていきたい。 ・笑顔を広げながら甲佐のいいところを伝えたい。 ・たくさんあるけど龍神太鼓。これからも続けていきたい。 ・考えたことなかったけど、これからも大事にしたいし頑張っていきたい。 	【工夫④】 板書や写真を参考に、考えさせ、振り返りへの記述に生かせるようにした。また、振り返りの視点も示し、書ける内容で記述できるようにした。

ア　自分事として考える導入の工夫

導入で、今までの総合的な学習で調べたことなどを振り返り、「甲佐のたから」を考えさせることで、本時のめあてにつないだ。また、見学旅行で行った清和文楽の写真を提示し、教材文の興味・関心を高めることができた。題名の「ふるさとのたから」を生かし、本時のめあてを設定したことで、スムーズな教材提示につながった。

イ　教材提示の工夫・発問の工夫

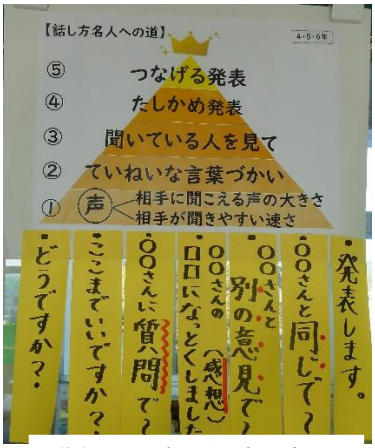
教材提示では、児童が内容理解できるように、キーワードなど吹き出しで示し、紙芝居で教材提示を行った。提示後、「①心に残ったこと②みんなと考えたいこと③疑問」の３つの問題意識をもつ発問を行った。感想を交流する中で、教材の内容の理解を図り、中心発問から授業を展開できた。発問は、B：分析的発問→A：共感的な発問→C：自分と重ねる発問で授業を展開した。様々な視点の発問を構成したことで、活発な意見交換につながった。

吹きだし付き紙芝居での教材提示

４年生の発問例《教材名「ふるさとのたから：伝統と文化の尊重,国や郷土を愛する態度》	
○なぜぼくはふるさとのたからだと思ったのだろうか。	【B：分析的な発問】
○おばあちゃんにとってどんな思いがあるのだろうか。	【A:共感的な発問】
○みんなにとってのふるさとのたからは何ですか。	【C：自分と重ねる発問】

ウ　主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫

中心発問では、書く活動を取り入れ、書き終わった児童から互いの考えの交流を行った。交流を図ることで、新たな考えに気付いたり自信をもって発表をしたりする姿につながった。交流活動では、意見をつなぐことを意識して発表した。１学期から学年の発表の仕方を提示し、取り組んできたので「○○さんと似ていて」、「○○さんと他の考えで」など相手の意識をもち、学習を展開することができるようになってきた。



学年の発表の仕方の掲示

エ　道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

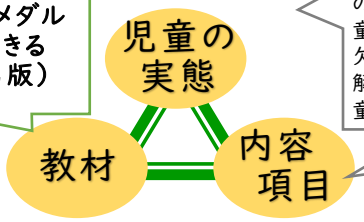
振り返りでは、本校で取り組んでいる振り返りの視点に、本時のめあてを生かし、「自分にとってのふるさとのたからは何か」を考える活動を行った。児童は、板書したぼくやおばあちゃんの思いや甲佐町の写真などを生かし、「甲佐のたから」について自分の考えをまとめていった。新たな視点を与えたことで甲佐町について見つめ、多様な振り返りに広がった（図８）。

○甲佐にはたくさんの宝があるけど、私は龍神太鼓です。私は龍神太鼓を習っているし、龍神太鼓をたたく人が気持ちをあわせているからです。
○これから、ふるさとのたからを探すだけではなく、そのために何ができるか考えていきたいです。何ができるか考えたら、「ふるさとのたから」が長く残るかもしれないからです。
○今までは、おばあちゃんのように笑顔を広げる人になれませんでした。でも、これからは笑顔を広げながら甲佐町のいいところをいろいろな人に知ってもらいたいです。

図８　児童の振り返り

【実践例③】第６学年　「25 人でつないだ金メダル」の授業実践から

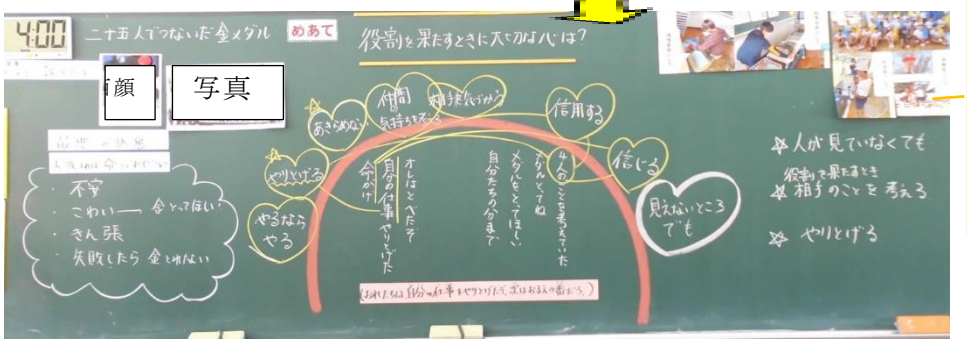
25人でつないだ金メダル
出典「小学道徳　生きる力6年（日本文教出版）



意識アンケートの結果から自分の役割を理解し果たしている児童が多い。一人一人が集団に欠かせない存在であることを理解し、役割を果たそうとする児童になってほしい。

【よりよい学校生活，集団生活の充実】

【ねらい】西方さんが役割を果たすときに大切にしたことを考えることを通して、一人一人が集団を支える大切な存在であることに気付き、自分の役割を果たそうとする心情を育てる。

学習活動（・児童の反応）　教師の発問	授業改善の観点
1　本時の学習課題を知る 〇当番、委員会、クラブ、運動会などで一人一人ががんばっています。（写真提示） 2　西方さんの動画を視聴し、教材に興味をもたせる。 西方さんは　何とおっしゃいましたか？ ・役割を果たす。 【めあて】役割を果たすために大切な心 	【工夫①】 6年生の写真を提示することで、集団のために役割を果たしていることに気付かせた。
2　教材を読み、登場人物の気持ちや考えについて話し合う。 西方さんの気持ちを考えながら聞きましょう。 話を聞いて、心に残ったことやみんなと考えたいことを発表しましょう。 ・西方さんの絶対に跳ばせたいという気持ちと原田さんの仲間を信じていたことが心に残った。 ・西方さんが失敗すれば命が危ないのに跳んだところがすごい。 基本発問「俺たちは自分の仕事をやり遂げたぞ。次はおまえたちの番だ。」の時、どんな思いで言ったのでしょう。【A:共感的な発問】 ・自分たちは仕事をやり遂げたぞ。次はおまえの番だ。 ・自分たちの仕事をやりきったから選手には金メダルを取ってほしい。 ・自分たちの分も背負って金メダルを取ってほしい。 中心発問　西方さんは役割を果たすときにどんなことを大切にしていたのでしょう。【B:分析的な発問】 （書く活動→伝え合い→全体交流） ・あきらめずに最後までやりきる。やり遂げることが選手のためになるから。 ・仲間を信じる。仲間のために信じれば跳べるから。 ・中途半端な気持ちではない。やるときめたから。 ・役割をやり遂げる。やり遂げないと仲間に託すことができないから。 基本発問　西方さんと今の6年生を比べて似ているところはありませんか。【C:自分と重ねる発問】 ・見えないところでがんばっている人がいる。 ・あきらめないでやり遂げているところ。	【工夫②】 西方さんの動画を視聴し人物像をつかみ、教材提示を行った。問題意識をもち学習への方向付けを行った。 【工夫③】 注目されなくても役割を果たす西方さんの気持ちを考えることで役割を果たすときに大切な心を考えることができた。
 	【工夫④】 西方さんが役割を果たすときに大切な心をハートで視覚化できるように記入した。西方さんと自分たちを重ねることに生かした。
3　集団の中の自分の役割について考える。分の生活を振り返る。 西方さんの勉強をして①今までの自分②今日学んだこと③これからの視点で自分のことをふりかえりましょう。 ・今日学んだことは、だれからも祝福されなくても頑張ること。 ・自分の役割を果たすときは、相手のことを考えて行動したい。 ・後悔しないように最後までやり遂げること。	【工夫④】 西方さんと重ねたことで、自分を重ねて振り返りのことができた。

ア　自分事として捉える導入の工夫

本時では、６年生が集団のために役割を果たす姿を写真で提示した。児童は、自分たちの姿から集団の中の一員という視点で役割を果たしていることについて考え、学習の方向付けを行った。

イ　問題意識をもつ教材提示、発問の工夫

本時の学習のめあてや教材内容につなぐために、西方さんの動画を視聴した。西方さんがどんな人か、何を伝えたいのか確認することで、「役割を果たすときに大切な心」というめあてを設定できた。また、教材提示後、心に残ったことを話し合うことで、西方さんが役割を果たすときにどんなことを大切にしていたのかという中心発問につながった。

西方さんのビデオ視聴

発問のパターンは、A：共感的な発問→B：分析的な発問→C：自分と重ねる発問で授業を構成した。

6年生の発問例《教材名「２５人でつないだ金メダル」、内容項目：よりよい学校生活、集団生活の充実》	
○「俺たちは自分の仕事をやり遂げたぞ。次はおまえたちの番だ。」と、どんな思いで言ったのでしょう。	【A:共感的な発問】
○西方さんは役割を果たすときにどんなことを大切にしていたでしょう。	【B：分析的な発問】
○西方さんと今の6年生を比べて似ているところはありませんか。	【C:自分と重ねる発問】

実話教材は、自分たちと遠い話だと考えがちになるが、自分と重ねる発問を取り入れたことで、終末の自分の振り返りがスムーズにできた。

ウ　主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の展開

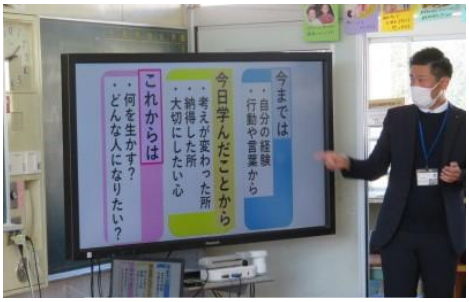
中心発問では書く活動を位置付け、自分の考えをもち（図10）、伝え合いから全体交流で取り組んだ。書く活動では、必ず理由も書くようにしてきたので、同じ「役割を果たす心」の中でも、様々な根拠が示され、多面的・多角的な考えにつながっていった。また、学級の課題である相手意識をもって取り組むことの大切さにも気付くことができた。

○次の人につなげる心
西方さんたちテストジャンパーは次の人につなげるという気持ちがあったから最後に西方さんにつながったと思ったからです。
○やりとげようとする心
自分は選手ではないけど、みんなの気持ちを背負って役割を果たすと考えたからです。
○仲間のことを信じる心
仲間のことを信用している方こそ命がけで跳ぶことができたと思うからです。

図 10：児童のシート

エ　自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

西方さんと自分たちを重ねる発問後、学習の振り返りを行った。「①今までは②今日学んだことから③これからは」の視点で振り返り、自分の姿やだれも見ていなくても取り組むことの大切さを実感する姿が見られた。



振り返りの視点の提示

（２）授業を支える共通実践事項

ア　聞く力・話す力の育成

児童が主体的に授業に臨み、周囲との対話を広げていくためには、聞く力、話す力の育成が欠かせない。そしてこの力は日常的に身に付けていく必要がある。そこで、「聞き方、話し方名人への道」というカードを昨年度から作成し、教室掲示をして活用している（図11）。段階的に目標を設定し、低中高で実態に合わせた内容にしているため、児童自身も客観的に振り返ることができ、学級・学校全体で「聞くこと」「話すこと」への共通意識を高めることにつながった。

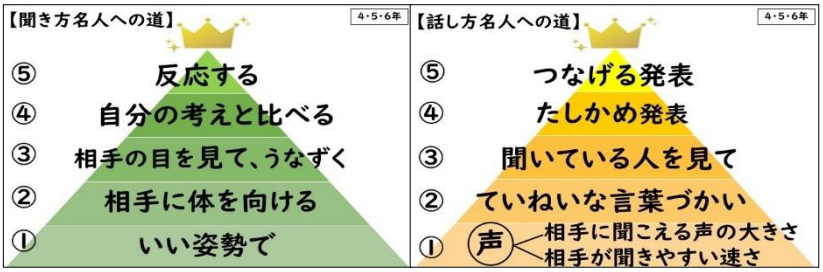
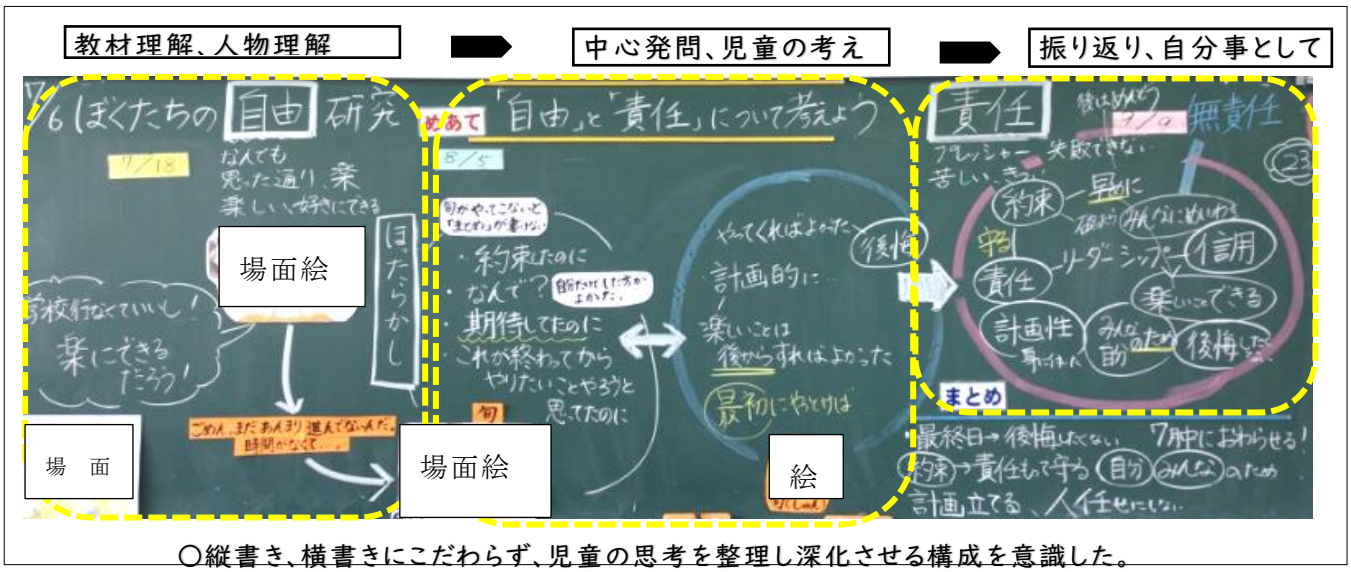


図 11：教室に掲示した「聞き方名人、話し方名人への道」

イ　構造的な板書の工夫

図 12 は構造的な板書の工夫における実践例である。横書きの場合は左から、教材理解、児童の考え、振り返り等と板書を構成していくことで、児童の思考を整理し、道徳的価値の深まりを視覚化できるようにした。また、振り返りの視点を提示することで、一人一人が教材と自分をつなげ、自分事として捉え直す手助けとなるようにした。



〇縦書き、横書きにこだわらず、児童の思考を整理し深化させる構成を意識した。

図 12：構造的な板書の工夫例（５年生）

ウ　振り返りの視点の提示

自分を見つめ、振り返る活動の充実を図るために、振り返りの視点を提示（図 13）し、本時の学びを自分自身と重ねて考えることができるようにした。また、教材によっては教材と重ねた振り返りを行うなど柔軟に活用している。

図 13：振り返りの視点

３【手立て３】授業改善に生かす振り返りと評価の工夫

（１）授業改善に生かす評価項目の工夫

評価項目の工夫として、本校では学習構想案に「授業振り返りのポイント」欄を設け、授業終了後に実際の児童の発言や記述を書き込むようにした（図14）。授業者や参観者が授業を客観的に振り返ることで、研究協議での活発な議論につながるとともに、学期末の評価の際に参考にできるようにした。

【授業振り返りのポイント】※授業終了後に、授業者や参観者が児童の気付きを記録し評価に生かす。

○児童

	評価の視点１	評価の視点２
視点	和枝の気持ちを考えることを通して，誠実に行動することの大切さについて考えている。	誠実に生きようとすることが他者の信頼や自己の向上につながるという理解を基に，誠実な行動について考えを深めている。
実際の児童の様子	【言う】(U.K) 自分も安心するから。 (M.T) スッキリするともやもやがなくなるから。 【言わない】 (S.E) 言わないんじゃなくていえない。勇気がない。おこられそう。(K.A) 友達から文句言われるかも。書き直すことはできないし・・・	(K.A) ぼくも弟のせいにしたことがあったから、これからは正直に言うようにしたい。 (S.K) 前はおじいちゃんから言われたことの意味がわからなかったけど、今日の授業でわかった。もしうそをついてしまっても正直に言いたい。

図 14：学習構想案（一部抜粋）

また、日々の道徳科の授業改善を目指し、毎時間の授業の振り返りを各自の週案に貼り付けるようにした（図 15）。授業の工夫点である４観点ごとに振り返り、気付きや効果的だった活動、課題等を書き込むことで、自身の授業改善に生かしている。

【道徳：振り返りのポイント】9月15日(木) 4年：教材「花さき山」　内容項：感動、畏敬の念

○授業者【4：できた、3：まあまあできた、2：あまりできなかった、1：できなかった】

振り返りの観点	自己評価	気づき
①自分事として考える導入の工夫	4・③・2・1	○いくつかの場面を想起させ、共感することで興味を引くことができた。 ○教材の内容が整理できていない子どもが「分からない。」と言っていたため、再度書く活動の前に本文を読んだ。 △「○○ないこと」を提示するときに理由も述べるとよかった。
②問題意識をもつ教材提示、発問の工夫	4・③・2・1	
③主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫	4・3・②・1	
④自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫	4・3・②・1	

図 15：週案に貼付した振り返りシート

（２）授業改善に生かす教師の声掛けの工夫

教師の関わりの工夫として、児童の自己肯定感アップにつながる声掛けを学ぶ研修を取り入れた。教育コーディネーターの松本裕子先生を招き、自尊感情が上がるような声掛けについて具体的に取り上げてもらい、教師が実践してみることで、学校生活に活用できるようにした（図 16）。私たち教師が日常的に使用する言葉が、児童の道徳性の育成に関わっていることを改めて自覚すると共に、学校生活の様々な場面において適切な声掛けを実践していくことの重要性を再確認することにつながった。

自尊感情が上がる声掛けは？

【教える・指導】
・～じゃなくて○○してみよう
・こうするといいかも。

【寄り添う・認める】
・なるほどね～
・わかるなあ
・私もそうだった。
・きっと、○○だったんだね。

【伸ばす】
・どうすればよかったかな？
・大丈夫よ、一緒にがんばろう。
・何度でも応援するからね。

図 16：研修の様子

４　研究発表会のまとめ

本校では、１１月８日に研究発表会を開催した。本実践でまとめた３本の授業と研究概要説明を行った。

図 17 の結果から分かるように参観者からも大変好評であった。アンケートの記述内容は下記の通りである。

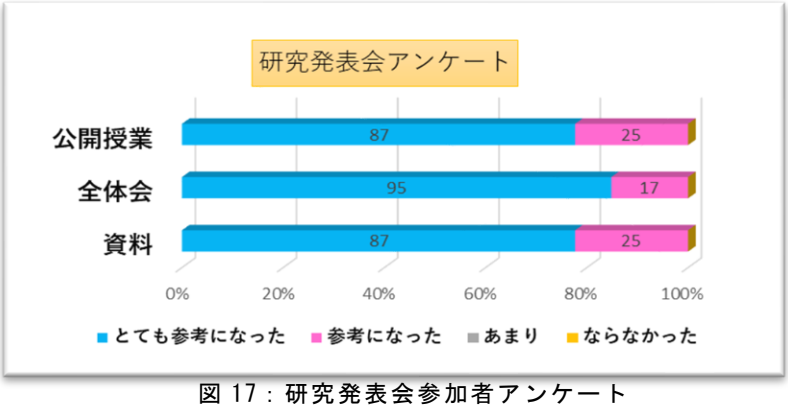


図 17：研究発表会参加者アンケート

【道徳カリキュラム･マネジメント表について】
＊カリキュラム･マネジメント表で他教科と関連付けて目標（軸）に向かって取り組むことができるのがいいと思った。
＊道徳カリキュラム･マネジメント「なりたい自分」をイメージ化する取組など参考になった。大人が意図的にどんな場面でどのようにしかけていくか、日常に道徳があり、授業で価値を深め、行動につないでいく様子がうかがえた。
【授業】
＊導入からめあての出し方、横書きの板書、子供の思考をさえぎらない切り返しや発問の工夫など大変勉強になった。自分と重ねるための工夫としての役割演技で多面的･多角的な考えが出ていた。（１年）
＊これまでの授業でたくさんの交流があったことが安易に想像つくような子供たちの多面的な途切れのない意見交流に驚かされた。板書も構造的で「ぼくの思い」「おばあちゃんの思い」がより深まるときに「包み込まれている」という子供のつぶやきが聞こえて温かいクラスだと感じた。（４年）
＊子供たちに気付かせたい心に迫るために、工夫された資料提示、分かりやすい板書と参考になるところが多くあった。また、なんとなく価値に気付いていても言葉不足で少しぼやけた子供の発言には的確に問い返す先生の発問も勉強になった。焦点化され、どの児童も心に落ちる言葉や考えにつながったと思う。（６年）
＊３学年とも教師と子供の信頼関係、しっかりとした学級経営がみえる授業だった。
【研究全体について】
＊研究概要説明では、様々な実践例が入っており、大変勉強になった。他教科とどのように関連付けるといいのか、行事と子供の成長過程の中でどのように位置付けるといいかなど本校でも考えたい。
＊龍野小の発表を聞く中で、教師の意識によって子供たちの自尊感情や授業への向き合う姿勢も変化していくのだろうと改めて感じた。

Ⅲ　研究の成果と今後の課題

１　成果

（１）【手立て１】なりたい自分とつなぐ道徳カリキュラム・マネジメントの充実

○　道徳カリキュラム・マネジメント表の作成、修正、実践を繰り返したことで、道徳科の授業と他教科や体験活動との関連を意識して教育活動に取り組むことにつながった。

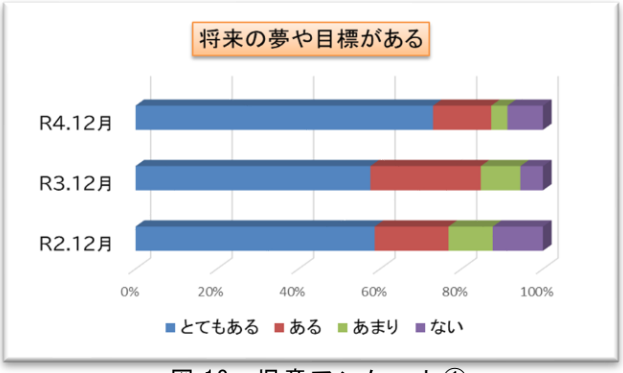


図 18：児童アンケート①

○　なりたい自分とつなげた道徳カリキュラム・マネジメントの実践は、教師が児童の実態と重点目標を意識して教育活動を展開することができた。また、キャリアパスポートや心のノートを活用したことで、将来の夢や目標を持つ児童も増加し（図 18）、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

（２）【手立て２】児童が主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫

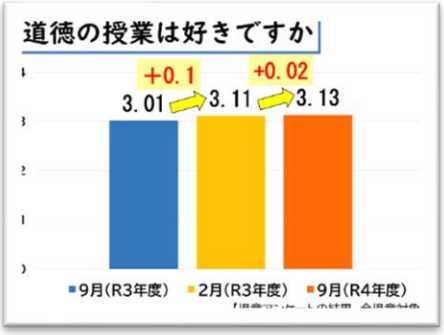


図１９：児童アンケート結果②

○　授業展開における４つの工夫を意識したことで、「道徳の授業は好き」（図 19）と答えた児童が増加している。発問の仕方を整理し、発問を精選した授業づくりに努めたことで、多面的・多角的な考えを引き出すことができた。基本的な学習過程を軸とした授業改善を行った成果だと考える。

（３）【手立て３】授業改善に生かす振り返りと評価の工夫

○　授業の振り返りの観点を毎週の授業を記録していったことで、自身の授業づくりの課題に気付くとともに、観点を意識して授業を組み立てていくことにつながった。

○　研究発表会アンケート（図 17）から分かるように、教師の言葉かけを意識した研修に取り組んできたことで、落ち着いた学級経営ができている。

（４）研究全体を通して

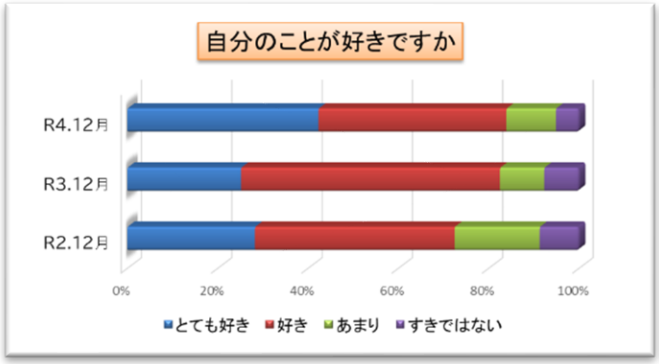


図 20：児童アンケート③

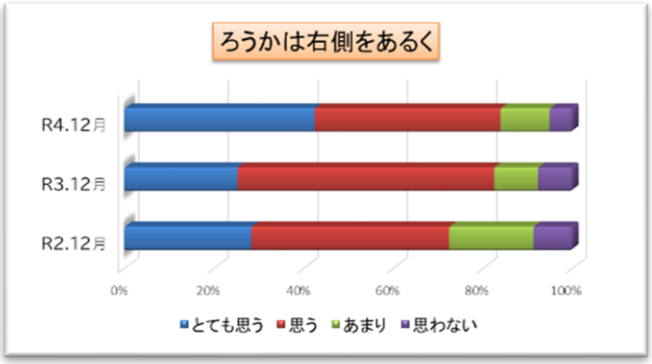


図 21：児童アンケート④

○　本校の課題であった「夢や目標がある」（図 18）「自分のことが好き」（図 20）と答えた児童が増加している。また、「廊下の右側歩行」（図 21）のように、きまりを守るその他の項目でも意識が向上した。学校総体で取り組んだ道徳教育の充実が、児童の自己肯定感の高まりや、夢や目標に対する前向きな意識の向上、規範意識の高まりにつながったと考える。

○　保護者アンケート（図 22）において、道徳教育に関わる項目の数値が昨年度から共に上昇している。これは本校が学校総体で道徳教育に取り組んできた成果であろう。

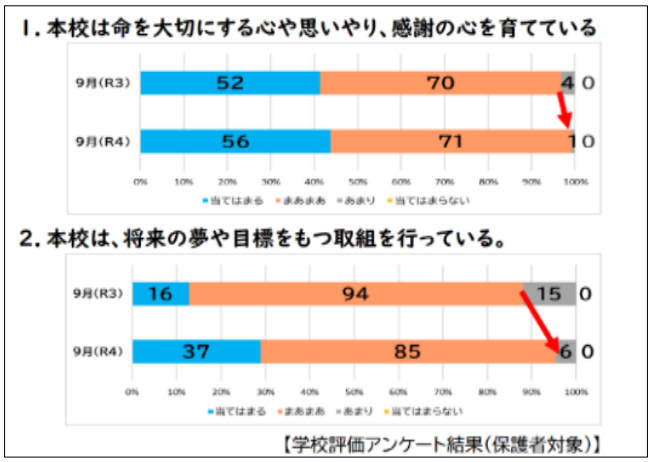


図 22：保護者学校評価アンケート

２　今後の課題

【手立て１】　道徳カリキュラム・マネジメント表については、ＰＤＣＡサイクルで適宜加除修正しながら、今後も道徳教育の充実を図っていく。

【手立て２】　児童の実態、教材、内容項目の３つの視点を基本とし、ねらいに迫る発問構成を考え、児童の多面的・多角的な考えを引き出すことができるような授業改善に今後も取り組んでいく。

【手立て３】　児童の学びの姿をどのように見取り、記録し、評価していくかついては継続して検討をしていく。

おわりに

「なりたい自分」を合い言葉に、昨年度から引き続き、道徳教育の研究に取り組んでまいりました。

「なぜ〇〇したのか」の発問はどうか、など、模擬授業では活発な意見交換を積み重ねてきました。児童が「自分事として考え、共に学び合う授業」にするにはどうしたらいいか、「なりたい自分」とつなぐカリキュラムを構築するためにどんな教育活動取り組んでいくかなど、研究を重ねてまいりました。

１１月には、研究発表会を開催し、多くの方に参加していただきました。授業づくりはもちろんのこと、「児童と担任の信頼関係」「担任の温かい声かけ」「チーム龍野小の職員の姿」など、多くの感想をいただきました。児童と職員が一体となった道徳教育を公開できたことが何よりの成果です。

若手職員が多い本校では、道徳教育を核に学級経営、授業力向上を目指し研究を重ねて来ました。今後も、「自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ道徳教育」を推進してまいります。

最後に、本校の研究推進に向けてご支援・ご協力いただいた関係諸機関及び諸先生方に深く感謝の意を表し、まとめといたします。

《参考文献》

〇文部科学省：小学校学習指導要領解説総則編、２０１７

〇文部科学省：小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編、２０１７

〇熊本県教育委員会：熊本の学び推進プラン、熊本県教育庁教育指導局義務教育課、２０１９

〇永田繁雄：小学校　道徳指導スキル大全　明治図書、２０１９

〇浅見哲也：こだわりの道徳授業レシピ～あなたはどんな授業がお好みですか？～、東洋館出版社、２０２０

〇島　恒生：小学校・中学校　納得と発見のある道徳科「深い学び」をつくる内容項目のポイント　日本文教出版、２０２０

〇永田繁雄：令和の時代に生かす道徳授業の新たな展開　第１２回パワーアップ研修資料　２０２２　他

《研究同人》

・大江　律子　・福永　道子　・木元　博之　・中村　智奈　・鬼塚　亜紀
・松岡　さゆり・甲斐　なつき・藤田　沙織（研究主任）　・岩永　光央
・山﨑　伸二　・澤村　法顕　・塚本　恭子　・宗　小百美　・中原　弘典
・松本　裕子　・木村　美保　・野仲泉　・松岡　生恵